

長岡京市議会
議会改革特別委員会

調査研究報告書
《市民アンケート》

令和7年8月19日

1. 調査研究項目及び手法

(1) 調査研究項目

市民アンケートについて

(2) 調査研究項目の具体的内容

長岡京市議会では、議会改革として様々な取り組みを進める中、議会運営委員会において市民アンケートの実施について検討する旨の提案があった。

令和3年11月に議会改革特別委員会が立ち上げられ、議長から、市民アンケートについて、議会改革特別委員会において検討を行うよう申し送られた。これを受け、本委員会では、長岡京市議会における市民アンケートの実施について、その可否や手法について論議するため調査研究を進めたものである。

2. 委員名簿

議会改革特別委員会

委 員 長	中小路 貴 司
副 委 員 長	大 伴 壘
委 員	中 村 亮 太
委 員	川 口 良 江
委 員	福 島 和 人
委 員	広 垣 栄 治
委 員	三 木 常 照
委 員	上 村 真 造

3. 調査研究の実施経過（市民アンケートの協議部分のみ抜粋）

1	令和6年 8月28日	・市民アンケートについて (実施の是非等について問題提起)
2	令和6年 9月25日	・市民アンケートについて (実施の是非、アンケート実施方法について 意見交換)
3	令和6年12月 5日	・市民アンケートについて (手法の検討)
4	令和7年 3月 7日	・市民アンケートについて (実施の是非、アンケート実施方法の意見交 換、市民の声を聴く手法の検討)
5	令和7年 6月20日	・市民アンケートについて (報告書(案)について)
6	令和7年 8月19日	・市民アンケートについて (報告書(案)について)

4. 調査研究のまとめ

令和6年8月から6回にわたって会議を開催し、長岡京市議会における市民アンケートの実施について、意見交換を重ねた。

アンケート実施の是非及び手法について協議を進めたが、アンケートの目的が明確でないことや、科学技術の進化に伴い市民の声を聴く手法がアンケートに限られなくなったことなどから、アンケート実施の是非について意見が分かれ、全会一致には至らなかった。

また、市民の声を聴く手法についても様々な意見が出されたため、アンケート実施の是非と併せ、以下に意見を抜粋し記載する。

5. 各項目で出された意見等

【実施の是非について】

- ・ アンケート内容は検討が必要だが、市民の意見を集めることは行っていくべきである。
- ・ アンケートの必要性や意図が現時点で不明。費用や時間もかかるため、効果などを議論したうえで実施すべきである。
- ・ 従来のような郵送のアンケートなどを行う必要性は感じない。
議会だよりやホームページにQRコードを掲載し、そこから意見を伺うのであれば検討の余地はある。
- ・ 議員である以上、市民の声を聴くことが大前提である。アンケートを行う必要はない。
- ・ 時代が進む中、アンケートという言葉だけが残っている。オンラインなどの技術の進歩により、意見の集約の方法は他にもあるのではないかな。

【市民の声を聴く方法について】

- ・ 長岡京市の公式LINEを活用してはどうか。
- ・ 議会だよりに、意見投稿用のメールアドレスを掲載するなどすれば、御意見を聴くことができるのではないかな。
- ・ 新しい技術を活用していくのが良いのではないかな。
- ・ オンラインプラットフォームLiqlidなどの手法を活用することで、新しい層（市議会のイベント等に普段来られない方）の意見を集約することができるのではないかな。
- ・ 傍聴の感想を書いていただくのが良いのではないかな。
- ・ 他市事例では、「投票に行くのか」というものも多いが、「なぜ投票に行かないのか」「投票率向上には何が必要か」など、斬新なものもある。